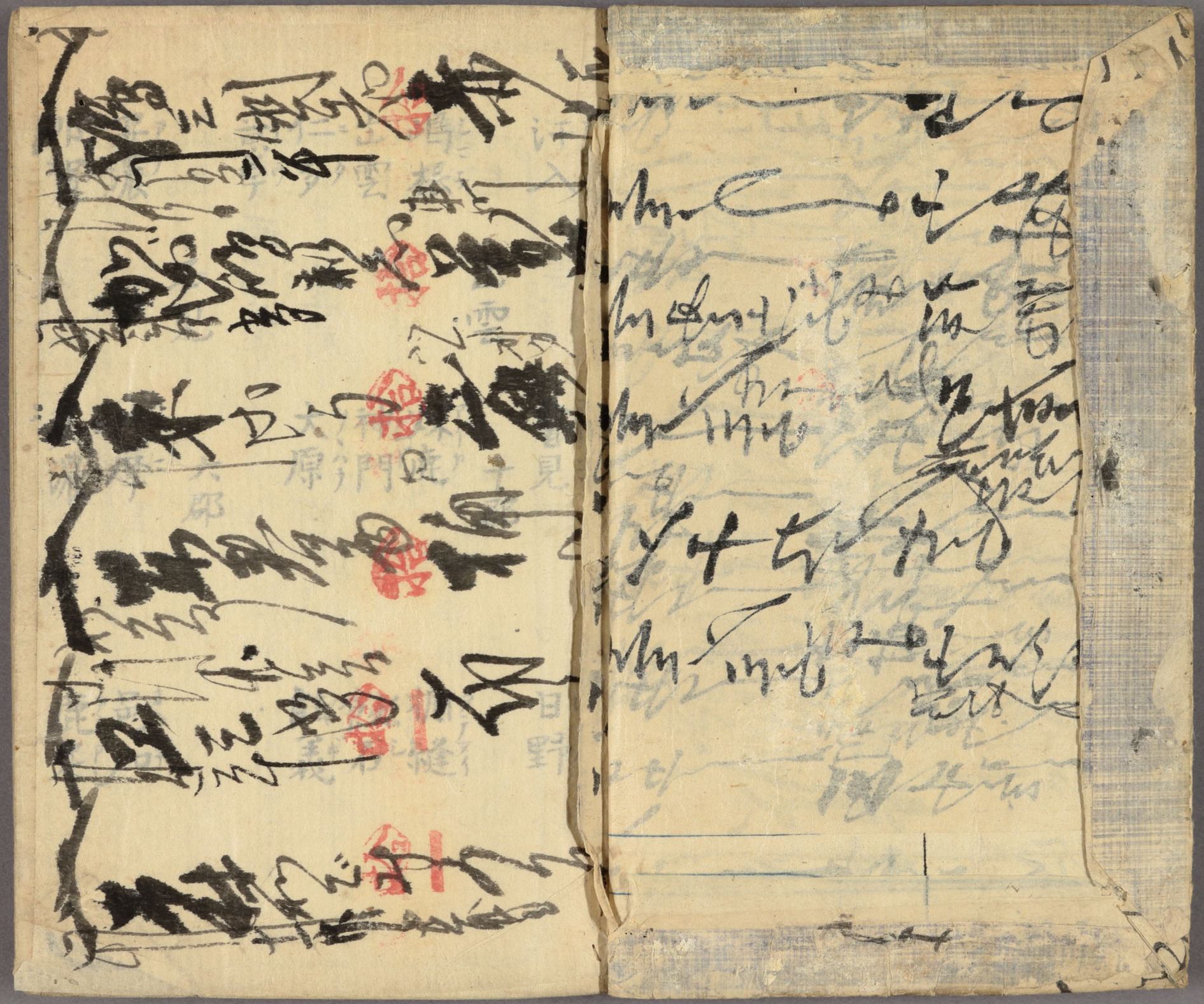
春日江戸咄

下

へ13
3133
3止



へ 13
3133
3

夫高紀をしゆ繁も更家業をもち
四方拍子をむる世代いとなむものなら
ちりつく業の子時あり行ゆあり志の
きて巻中玉成は戯画楽玉いゆ子と
ひしゆ巻に帝ふ

貸本元
大野屋亀吉

風流誓古三弦巻之下

江戸　式亭三馬原稿

第三會

仕舞湯でうるさく永ら毎晩のけんと

俵八銭をついやして半時の永湯ふ甚賣のく
どをとうろ。ざくろ口をふさげく頻少べこの
いてうろわどとすり。晒布のふんどゝ八掛を
干上りさカン所捕の明をたづねるぐらあのど

自由を節をつけて。新上るりの當文句。その
功とうんぞ呼ぶ第子入とうり。ゆりくんて
呼ぶのりうをテンとも。ツンともらぬ。半の
間のうとどあるを。子供の笑を軽れて。法のわ
そとを下つ〳〵とりくども。お按の長八人並を。
出すものハ取らまる。その時目がさめて商賣の
知をとりまるんおとる。ア浮世うるかる。愛を来る
のきみ肌ハ　吉五郎　ヒ〳〵のところ世五兵衛のの引を大ドの
どそら。三尺ふぬぐひの縁たぶハきろのたんぶろ

縁くらぞふりをうきき。あさだのふぬぐひをうくうけて。ふとろろら
きうのくつまをとり。たろうことをうくろ。その横くろく
八五郎　とんのどそらの下へ出ろうをきそ。げをたきあぐろをまるさげ
ふぬぐひを九めてあるうの上人のせとをもるあるれぬたるうをを
うくひろぐら　八五郎　吉　やイべらがうをおれりごナア。
ぶらくあるた
ちのときり出やナ　吉五郎　おらア得ますがりく　痛
ろく。あるうを行くやイ　八　ようとれらて。ちの　前　定
やうふでくを去ちやアナ　大夏　ふろきるのハ行くやア。
おのひきろくあるきやナ　吉　そをでもいろくて
いけれくものを　八　そのめくきの去をりくを

だナア 吉「そんな夏をいつぶ。てあくうんぞ出来
ぞや。そまとさア 稲ナが 隠取つとつ
つらアするごろう人のこの支
がうる夏をいつナア 八「ヲイそら大の糞がある
吉「ヲイ 来とトぐ 八「そ人をべらがうよしこ盲ア
つまとあくあうごア 吉「おつけ追付 銭が盲よ
うつとそのけんとごア。ちんがうちやナ 八「そ
ちんぎのうちんぎアのうちイ 吉「ハアすとをよ

かうぐナ。大り難とぐ 八「チョッてうちんをとりて
ちうちアとうつとナア 吉「てまえのあこまでたく
きんぐア 八「ヘンちイさぐけぐア。てあくぐあア有
ちくー 吉「ムそヲうらくエト 八「五郎ろぐべえふとて 八「イエ
ぐぶのうくくあんとこ
あく稲く夏をしこア 吉「どうこうこくイ 八「田町の
名物とゆらうこイ 吉「ナニ田町の名物ぐ 八「名
どんぐイ 吉「ハアア田町の酒込ぐう。このさアいい
八「そのぐ所ぐやア稲くチョッいちくまの 吉「ヲイく

髮の井戸で洗やナ　八「とうづ　ウクけてくろやナト
くとうしかきぶり　吉「きるア祝くせ。そろ世くぺッく　八「エ、
くせ井戸のそばくろ　吉「きるア祝くせ。そろ世くぺッく　八「エ、
そんうるおきこのうること真　とア祝へコイ。高ぐどふイ
ふんどんぐんぐア　吉「ぐゥつと着物ウ引ぢりあげ
ヤナ　八「ヲイ来こナ　吉「あり足こうとろちく
出ーやナ。なまぐ西うんをしてゆくぐエ　八「エそきぐア
ふるイ　吉「ハハハ。べらなうめきぐるア　八「ア
タヨ　吉「サアくぶろうけうぜくく　八「よ　あつけや

吉「そうらトぶを　八「エそこつべてく　吉「ぶろこのウ
とこしやア紙のつべてく羊ぐア　八「紙がつれく
吉「モウよろらう　八「インニヤモウいろ盃ぐく　吉「のろん色
ぶこをりふせべコウそうやアいゝぐきけくどうゝ
ゝイ　八「ヲ、どうゝこうけるア　吉「コウおのれくゼ　八「ぶイ
ふんどんぐんであ与アくらろてゝ　吉「ろこ忘てまろちまろ仕舞
吉「ろこうけくゝやア去れくろ　八「どふぐぐイ
吉「けけ祝くんぐぜト　そこちを見ぶぶトあ　どぶの見きこ有とこ　有こうく

八「ゑまことのこそけくるいこんぢゃ 吉「ひちのへら
（夏）
ゆくだんだうぢゃ。そまぢゃらどどくかりとち
ちゃ 八「ヨイキまこ（てんぢ）ま拭が後くやゃ 吉「ちまだ（知）ちある
者ん ハイ 八「そんることをいこちずを見て人まエ
吉「よくせこちゃ申せやゃ ぐろうぢゃ 八「とまもてめく
のちゃ ぐぢゃ 吉「ろぜイ 八「てめくがつまてろて人まエ（連テ行テ）
とのちゃ。とんるめふ遊こゃ 吉「エてだらだうる
（ゑん）
ゑこきまるぜ。サゃ ちゃ能 いこゃ行 八「きちやく

下狄ァどうしくろけ ナァ 吉「よくの（色々）ろんることを
のこぜ。下狄（げさ）の番（ばん）ハ去ねくやゃ 八「そんることをいこ
ずと見てこまく 吉「チョッきろくらで去まやゃ去
ねくトのひろぐらちちち ヨイまぬ（ちちちろ見て）ぐ愛よあ（そ）有ら 八「あ
ぐてくくく 吉「下狄（げさ）ァ後くぜ 八「ナニ後くこくぐ
（有難）
あろのんハ 吉「そまぐろく後くも去ねくものを（む）無
理ナこと出いこを 八「どぶン中ぶやゃ後くろ 吉「きてれく
（ぶ）
こやナ 八「後生（ぜう）ぐゃ見てこまこ 吉「あ（有）ぐゃく

ふかくそだごうア　八「ふうどだの八幡さるアどだご
吉「ろうんのとりこうらねく　八「てめくも牡暮る
めんぐ毛。深川の八幡さる。とのふ高まてご　吉「お
きやアが毛。おもしろくす彩くト　ひうち八五郎五郎へ　八「る
ぐんぐろ落彩くきうご。まろくるらでこうられく　吉「まろ
くら四免るさんまーろ　八「うさアれく　吉「サアいひ　能
うげんよ去れくろ。のりまでやらろても新ーろア

るら彩くやナ　八「エそよすべエくト　吉「こうて
めくのまんぐひをうきれくろ　吉「るんよするんざ
八「下駄アふろア　吉「四深切ざ。犬のくもの彩く呼べ
そろくりおのてんるッサ　八「ハハハハハ　サアいろの　行
吉「大きふお待まが　きのくあきれらア　八「てんる
よりふるイト　吉「モりのろ　先生彩
のひナア　八「ろんぎよウつけるろイ　吉「ハハハハハろ　縁起
ふれるアト　こまてふうまも作品の入口へ来て八五郎八ばりと
たへりろぐるをよる見呼べあたをとうるまりて

八「伯母さん雑巾をうーてくれねく　親「八ぞん
どうあーぐこ　八「親のきろれねぐ。どがこうはくかろ
こちこゆろさ　親「そうそやつあぶねくけどでもあやつ
ちろるん稼くろ　八「ナアニ今井戸であらろこうろ
理屈ざアねくト　ヨイ吉や　鶴八
つまやナ　吉「ヲイト　親「モシどうころころ
ちくおそのんろきのまーる　吉「アイト
い母親「おまのさんもどのもどもろうこうく　吉「ナアニ

八「ぞんどろこだく　八「こんだうあくよちろ
こうこたろーとおのろ吉公をちろぴりおまの子
入よ　親「おくそのうイ。サアモシとうちくか上
つろる　吉「アイ　八「ぞんがべら
ぶうよすくわるうら。ちろとだうりゆらーてえ
ゆううとおのりて。エヘヱそこでアア結ぐりやしく
うんぐろうちらアア不器用のんぐらーらでこうこ
のひぐナア八公　八「人間のゆらうすとうこう

きまれくとのふちよがのちがあるのんうナアそて
おやア稼へい　親「そのサ。ナニがそふさア稼へのんサ
ちとこの方で三みせんを買こくのイ是てのる廿五六の男の人事　「とれハ
とまハひきこくけんこのくるあるきのこまうふとこ出
モシ　ちまのさんふやアさんどめてあめよかこと。
ちうとろ母安くおこのんやまます　吉「アイくト　ふぶ
をおんぶ　親「そまでもちうこアなぜどあやりごらうす
でのろ　言「エヘンうるアる　八「ナニ吉公ハ何ぶアナ。ありこと
稼へぶ。べらぶうる上るうぶ好ヨ。ぜんてくこのが

のひのんざうら。ちうとだりあらうこうら。だきき
まうまうらうとおのて。エて人をつけくナあり
けくすくのうよのよ。ちきりとすうこのちめくん
華　とけくちりで来イ名れくうら。つまそうてくまを
所　獨　連テ行　仕うち母親　ちごるを
のふうら。とんや連て来このヨト　月そのとくちるぐら
親「とうちやアハきんおめくの久人八「吉公ハ子子入
の方ヨ　親「ヨやおうこうらのひよ。かくさんそうイ
うんておきる　母親「とんるとを考ふさうちうア

あきのどくじゃ。ホヽヽヽヽ　吉「おくうえざあ久〳〵く
きゐたるうく。の え「イヽエナニ二年だろう糸のまゝが
ゐうろら出来ません。ちう〳〵ゐうらいふことく
のとおり。蝉うら蝶〳〵ゐやあうろら出ゐへとちびく
ゐく。うふてろうのりて世人のうやあ。いろのまゝの
おびくるゐんサ。おめくさんゐんざあそゐざ子。出来
ゐへといのりく。急復あ　ちとう〳〵りうゐあする
ぢ。のぜうあがるめがゐく子エ。そとを志んがらう〳〵て

やらうとしのとこ。ゐあ米飯ゐ　佐　ゐくゐやあうりや
さうゐ ハヽヽヽヽヽヽ　ゐあ「ゐんとうよ。のん太郎さんの
のふ通り。志んがうがでくゐ　大夏　サ　ゐく　八「そのちがサ
志んがう小大夏とのゐうら　吉「まゐと安　ゐ　浴をのゐ
ヨ　ゐく「アヽヽヽヽヽヽ

よろろう吉ハあんぐぶが好ごろらナア 吉「だろアのの
ゑイ 「ハハハハハ 八「吉がすれる甚兵がいひ
やナ 「そのあませうろ子 吉「どふでもよのど
ぜくス 「すんうらあでくゆりませうろ子エ
吉「へへできうやアのひがト そまでこんのてうしをあ
吉五郎よりて 「そまじやア洋ごゝョ。アハハハ 吉「お
きやアがまトのろくひれてり 「えごろ昼ろうろうら
よろうアさろたりうろうられへ 八もきのどく 八「ナニちろを

だろうの本ハのらなくハナ 「せアナえうら名や
あくつきイくのゥあきアーイふくろァげきイよゥ
きイかすゥみィをゥゑァがアくすゥくすゥみィ
だアがアアくリハア。爰ますでのひじやうれへろ子エ
八「そのョ子入のびちうぎごろら。ごろつけへぶ 短
のひやナトとれうり三べんり 「又わくこのあませう
子エ 吉「むごうのあんごア 「ハぎんけのこゥやら
うろ子エ 八「そのスあれてもひけぎろうせう

ぞやアれねくら。吉公のもつてきて得てをおいたきやアどのごろう　親「アくよのこ　八「かくさんくふ
きそてんねくら。何ぞさろうアたてらのく来て
んねくナ　母親「ろくハシケごこのうてぶうんで有る
ゝ者らん　親「かくさん伊勢久へいてどらんナ
母親「くそよでもきて見てんやう。サアそけくナすこよウ炭
つのでこんるート　ナミろうをのでこ　のえ「ろうちぶつぎ来せう
ぞうちハまをたべます
八「サアかくさんト　四文銭を出す　親「ナアニこのちよ
ある　八「何サもつてきれくこョ。つまらねくエをのこ。
持　行　親「そうアぢうを世へねく
うんぞうめくうめぶのいひぞ　如
味
ゝるアゝゝゝゝゝ　岸のたれる　バチイイイイイ　のえ「ヨイのの
行へ　親「のん太郎さん　あぶれねくヨ　不ある　バチイイイイイ
吉「ア　山でのエをゝ子をまてろ。ベッくく　八「よくそん
ゝエをきつてるアゝ　吉「きらよくうちやそサー。　清兵衛
知居
八　親　のうちのいやくきたハきびせうをやたまらのちをすぶぶぶして
のうちのいやくきたハきびせうをやたまらのちをすぶぶぶして
きたのくこぶとをナぶくくのんでの　八「ちやきさんかうぶーーー
いくでもきたくこぶとうり

ちゃとかとうじゃやアねくら 母親「うえんするんぢゃ」
八「有ぐ行くゝときゃア 時 煮奴でもするらアナ 母親「そ
さねく。さんうらちとでかのてかゝ煮ー うぐーだとだ
かうこ きてり 母親「うえんまれくらら。いろうものとちこ
あうあて来きョトいうちきゃやの中さらを特人の主特
酒や「あまのさんろ子 八「ヨイこの口ちぢ 酒や「へイ さきう
うらト ちとちり 無をやこ そうちイかいえまさくくぢこの
きまく ヨイくぐつてんぢく 母親「とうきゃアすイ 斉

でる 酒や「ハイくト 出そ 八「うえぢナト 紙のふとを とうてだそ とのさう
素敵ぢ 母親「八さんかうぶ 軽飯 ちゃうのそうえんのすえ
だ 八「煮奴をせうと思うく 母親「ようるうアれくの。お
母や 烟をつけうう 母親「ちそうらうみせうとーれく
吉「うえんぢ 吸ものがあるとのひナア 八「せくとうりの
ぜ 母親「サア 烟ハいひう 母親「そうちイだーるくト
のえ太郎ぐがんをぢ 半やちたとを 半やちまれのよ
うらぐぐそうるぐ 文ますのまんとちをひるるべ 八「時よとうゆう 豆腐
ううとこぢうるめく のえ「ようちぐいうそさ 母親
買 末

母親　ナニいひよの　何ぢやいなせくとのこと　吉　かくさんもとけくおやるせくナ　母親　アイく　爰　つすと
おくんを見ようろ子エトつぶやとするを三五郎　母親　とうやア　きびせうを
導ぐ子エト　せうちの太郎　の　吉　モシおくさんとうちイ　前　来るせくる　の　ハイく　おくま
いナさいまナナト　とまりぐんく　みる　碎ぶけうろ　おくさんとりぐ　母親　ホンニ　前　おくさんきのてかくんなさのまつ　とんる
夏　をいかとかくしのぶ子とのおやきようとん　仕舞　行くよ

するうアんよくくナ　丈体　こうちやア　行くこう。
そうとうア　今ぢやア　おとりで　独　育つこやうよ　思
てるうちつちアかうてうアおれく　居　ッいと
二言めやアつうんくしやアがりて。ホンニサのける　殺
んじやア　行くよ。人　おやア　の　ッて見ろ。駕　流て
見ろとりて。ホンニサ人中ア見れくものア。ん　者
おいけれくよ。ちんこをいつくとかくしのが。おらつち
が　若　けくぶんこやア。袖褄も　曳　とのんこ

松魚節を　岡山鳥

今時の
のんぐさ
のんぐさ。ホンニサテ
大相
そのよ
遠く
のんぐヨ
船
おぎさん
おめくどうたよ
強敵
の
著
毋親
イヤサ
の
夏ヨ
毋親
まさかくさんが
酔
ぶちをいふヨ。
毋親
ナニ
えぐこと。
イヤ
ア
かくきん。
のんぐヨ
毋親
ナニ
そんなことをいひつとうし。
チエ
ハぎん
ハ
ちげくなく
遠イ
そまとりやア
えぞいきるまとうもろこし
斬
のうがいひ。
ホンニ
いきといやア
かりとろア
仮定
どでぐいまチ
吉
素敵
とたやろ子
の
へエ、ろろ
ちらア
流行
よ
おくまてろ子。
まぐこの
ぐやせんゼ
ハ
おめく
強氣
よぶせくぐノル
の
大きおサ
吉
かり
たくとろやアのろうのナア
ハぎノハ
附馬ろ
吉
そそ
ハ
そんなことアのふるイ
吉
ハハハハ
毋親
氣ぎが
らア。
おろいぜ
ハ
よせくく
毋親
どくくんぐく
たるくてぶきろ世チ
吉
ナニサ
ハ公ぐチ
焼
ぬへ
ぬくよ。
去る
内
へ
押上つとの
の
きぐろて
前

あらき世うれ　吉「そのスのうの色ごぶ子。そうちうう
むのているみ　ま〳〵「ハ〳〵〳〵〳〵　吉「あきてるせくうかの
理屈サハ「コウよ世く。そんるとう出　吉「のひじやアねくうナ　ま「どうおーのごエ「あく
もそんるみきくうぐらこねくでもいくじやア。ねくう
ま「そんるよおのひるをどうるを焼てく。子工吉さん
みそるーナ　吉「うみスアンべらぶうが子。ゆさらよ女
ぐどよーくのうよーくのとさんせるあげすうさ世

ゆすとうちもどふたらぐ子。そこでうちもぐ思の
ふやアス。とのざアのちざアーて。おのさるまぜろ　一比
ぶ返ーてゆるべいとおのつて子。一所よいきやくーう子。
ぶぐんうらうアんのうんのとどくゥねうすうら
ね。どんるおさふくぐと思くうさら焼るるて。頬子
うんのとこアねく。獅子の香焼ヨ　ま「ヨゃく耳が　変
のてく子ヒ　吉「ナニサマア波ねんー。そこでうちもぐの　滑
ナア子。勤ぐ義糸で頬ぶ獅子べちやア。ねく義糸の

女郎ぢやうるこのて子。獅子の香爐ヨ。ぼぎ
ら墨の京へツン並んでのやうぐこらこ子。あくまり
のくまーのうら。ろちぐ一番くらァーつけこ子。
まかきこ三人墨八人。のも二面ハ出来ろ祢ろと。
やらうこ子。のえウウのひくく 発花 うえのとろこ
祢くのえ桃栗三年 柿八年 発花 といふとろこアナ 発花 そ
そぐこ子ふふふふふ のえ夫 そいうこらどうこ子 吉 岐
祢ーこ。ろちよあぐまとのひひ みす のえ面白 へくあり
きくこ子 吉 所をろちぐ上ら祢くこ子 吉 そそでろちぐのふ
とぐあくく山ごこチ のえフムウハテ子 吉 上ろべこて 発花
うア種ろーごッチ。子ヱ夫でもよろア上ろべこて 発花
たらこ子。あきぐぬ子のウ咲れく。あくとけくあぐらえ人 前 爰
で蛋子屋へ上きびくとぬこーやァがこらこ。ぐロ
うッとあやくあ障こ子 のえ こいさぐアそぐろうス 吉 上ス
からのくまーのうら。二人ッで押上ッこ子。人をつけ人
よーこ。お袋ぐ死ぬやァ表くーこ。食表ろうと

人をのうえのと。むやみと一行くと極てこのんでごう
べらかうに自分のうつくしさ。並べやアげのこと子。
そのうら嫉妬ばかし。ふこありうづらからのけつづうス。おさ
まられく子。附馬よりありづてくじやア祝くら。そけく
いうちやア又八公うえざア人づ。うちの子。志乃人よやア
けんうざうけへして。附もるアふこことをしうス。その上
喧嘩仕至
よのひどさづのひどやア祝へら。アゆふあんづくよりてス。
云草紙
よりおあてちんくとうくら。小塚原ら大千住の
方をくらアつけうふとうくづ。ふてうとの男ヨノウ
八一平のひよふことをいふ。そん其時ときやアナ。てめくづ最前
先イふこ潜倒とそふとうくア吉平堂をうくうイき
いこふうる毋親ときわ。ときやアどけくうこ吉ラうら
ちづく八がうふらづ涌きやア右れくら吉モウ敗よ
ううちまくア八くちのへられく夏をいふア。そう夢
仕舞
そふとかくんまづ有ア子毋親一イニヤの「それどやア
ちをすト宅ちすぐ吉コウおくどけくうてんごナの「何ちう

たうまるよサ　八「ゆげちやァあのれくゼの」「ナァニサ　[illegible]
のんうトおもてのぜーぐまと　素人ぶてまり　サアあろうやあ　爰く　親　「ア
ホン三男とのようアあ氣さんぐざれく。ろうちらん　[illegible]
うぐ男でんうせく。　大体　せくうまるのかのとうせくのものウー　そろくまと　ぐちとうの
ちやたぐまうとうせうでおうぶどーよ　「そう
「さけとハ米のみィづウゆめろーどやうのイグァ。　ちや　[illegible]
ざけとハァゆめさァんムせとり　「シテ　妙　ざくく

三味　ステレツテンく　八「のきイで小きみイで正のめうぢ
のうちぢうめうきぢまきぢまきぢウ人もあるウーとウーと
まうとかどぶようちい川　吉「サァきうゆと「あのや英石公
が土掲のうくうら履物　たきの　かとーて正。とと正さァ張良さ
んたぐうりうぐらおくのんのうーまきすウ川のアどぐ
いうぐんくッ　おうと　「むうとゆイとうぢうめくてエぐうとあの
きとうきうるとうすぐゆイうのアきイだァまウきりぐ
すウ川　吉ハのれ「サッサイ。そ　妙　ざくく　イト　はうちはすぐを
あうらうゆくこれ

こんやのうちの　毋親　サァあつのうちぃどるこすぃ　お上　ろのびぃ
おどりとんさり
とりけれくヨ　毋親　かくさんとろちぃ　一ッ　ちゃ　毋親　サァヨト
そぐのりを　三人　とんぴぃありがてくト　有雅　ちらくちぐろのろばを
とってゆる　りるぬすぐるもそろをと
スッスッ　古市　チャッく　の　ちゃうめく　味イ　ちぐきんぐとんぐ　何所
毋親　大村サ　三人　道理ぐろ　四の　拍子木カチカナカカチ　ろぐを
ちゃうの　チャラ〳〵〵〵〵〵　毋親　モウ　ろぢょう　ちゃうろのの　路次
毋親　モシ　かっておてるせくまぃヨウ　八　イヤ　四ッぐぁ　けへ　帰
ろう　毋親　アァよれハチヱ　吉　又翌ァ　仕すぐぁ　の　イヤ　四ッ　ぐ

ふめくるませう　三人　とろちゃァかくさんぐ　大きよ　毋親　ハイく　ぐ
糸
ちゃもさちゃうるら　三人　アイ　休　ミト　あとふれるろうぐとちゃうこの
ろぐらろ〳〵をぬろと
ワン〳〵　ワン〳〵〵〵　吉　エてとんちく　せうめェぶち　殺すぜ
蟲　生
八　ナニぶち　殺す。　下馬ぐやァ　ちるめく〳〵　三人　ハ〳〵〵〵〵〵
かる　棒　チャラン　ひ　火の　用ぐ　きう　ゃ　ま　ぶく

後編 其継掉

三編 心太掉

式亭三馬原稿
楚満人校正
歌川國直画

文政九丙戌春発兆行

江戸 日本橋南詰 大阪屋茂吉
馬喰町二丁目 西村與八